

## 市政に関する

## 一般質問

要旨

第1回定例会では、14名の議員が質問を行いました。質問は、インターネット上で録画をご覧ください。



多摩市議会会議録  
検索システム

YouTube 多摩市議会 で検索してください。



「ちいさな鯉のぼり」  
撮影者：AMさん  
撮影場所：グリーンライブセンター



## 渡辺しんじ (公明党)

観光振興・スポーツ振興×健幸まちづくり

**問** 長期化するコロナ禍により健康二次被害が憂慮されている。健幸Spotのしつらえの工夫や観光マップなどをデジタル化して、さらなる健康意識の向上を図ってみたいかがいかがか。

**答** より使いやすい健幸Spot、マップのデジタル化を検証、検討していく。

**問** デジタルマップに市内バス路線を実装し、周遊しながら地域の魅力再発見に繋がる「多摩市ナノツーリズム」を提案するがいかがか。

**答** めざす方向性は同じ。コスト面の課題はあるが、今後、検討していく。

**問** 全国で広がりを見せている健康ポイント事業を多摩市も取り入れるべきと考えるがいかがか。

**答** 健康無関心層への効果的なアプローチを検討する。

**問** テレワークなどで夜間のスポーツ活動のニーズが増加している。照明設備の増設を要望するがいかがか。

**答** 費用面や地域の環境を考えると難しいが将来的には検討したい。



鶴牧東公園



## 折戸小夜子 (フェアな市政)

- 1.高校生や大学生に奨学金制度の新設を！
- 2.高齢者のフレイル予防の取組みを！

**問** 多摩市で奨学金制度を廃止した理由について伺う。

**答** 経済的理由で就学困難な高校生や大学生を対象に、国や都が制度を設置し改善されてきたことから、奨学金制度の条例を平成22年廃止。

**問** 2年ものコロナ禍で、大学を卒業しても貸与型奨学金で300万～500万円の借金に苦しんでいる実態は社会問題。多摩市の子どもが学べる独自環境を作ることは必要。本年4月から「多摩市子ども・若者の権利を保障し支援と活躍を推進する条例」が施行されるが、具体的な対応が急務ではないか。

**答** 条例施行後、奨学金制度を復活するか否か子どもたちの教育環境を充実する対応を検討していく。

**問** 高齢者のフレイル予防にはリーダー養成が必要である。その実態と、地域での予防の活動に有効と考えるふまねと運動のサポーターの資格取得に要する費用の予算化について伺う。

**答** 平成25年から介護予防リーダーを養成し、現在172名であり、今後もリーダー養成を行っていく。



## 池田けい子 (公明党)

- 1.災害時応援協定と防災・備災啓発
- 2.副読本「B型肝炎いのちの教育」の活用を！

**問** 災害時応援協定の実効性を高めるためには、「見える化」の推進が重要と考える。BCP(事業継続計画)に記載し、災害を想定した応援要請訓練の実施を提案するがいかがか。

**答** 協定先とは顔の見える連携を深め、庁内の共有を図り、迅速な支援依頼ができるよう検討していきたい。

**問** 避難所等に設置する特設公衆電話の周知、郵便ポストを活用した啓発、また乳幼児世帯へ備蓄セットを無料配布する「贈る防災」を提案するがいかがか。

**答** 市のホームページ等で周知を図り、先進事例を参考に、他の所管と連携し研究していく。

**問** B型肝炎の事例を通し、感染症の正しい知識、偏見や差別のない社会構築を生徒が学べるよう、副読本「B型肝炎いのちの教育」の活用を要望するがいかがか。

**答** 各学校に対して副読本の積極的な活用を促していく。

**問** コロナ禍だからこそ、B型肝炎の副読本や外部講師を活用し、市民へも啓発をすべきと考えるがいかがか。

**答** 過去の歴史も踏まえ、人権問題として発信していく。

